

THANKS

(VOL. 189)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成25年3月1日
発行者：有限会社サクスマインド コンサルティング
連絡先：〒359-1118
埼玉県所沢市けやき台 1-41-11
TEL:04-2922-1417
E-MAIL : info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「四字熟語から学ぶ仕事における心構え④」

今、本誌では「四字熟語」を参考にしながら、私がコンサルティングを通して「こんなことが大事では・・・」と思うことを紹介しています。

題して、「四字熟語から学ぶ仕事における心構え」。

今回は、その4回目。

「こ」で始まる熟語から始めましょう。

こ：「厚顔無恥（こうがんむち）」

<意味>

他人の迷惑や思惑などには一切かまわず、自分のことだけを考えて行動する図々しい態度。
恥知らずのこと。

<使い方>

いかに私が厚顔無恥でも、今更このママに泣きつくわけにはいかなかった。

<檀一雄・火宅の人>

電車の中で、大声で電話している女子高生…
混雑する街頭で、歩きながらタバコを吹かしている若者…
よく見かける光景です。

「テメー、迷惑なんだよ！」
文句のひとつでも言いたいところですが、逆襲されたら嫌なので、心の中でつぶやきます。
「こいつら、どんな神経しているんだよ！」と。

彼らは、自分たちが行っていることが、「ルール違反」であることは理解しているようです。
それはそうですよね。
あれだけ、電車の中で「社内の通話はお控えください」と放送していれば、嫌でも耳に入ってきますから。
それでは、どうして、「悪いこと」と分かっているながら、その行為を止めないのでしょうか？
それは、自分の尺度で「この程度は大したことがないだろう」と判断しているからです。

「自分の尺度」と「他人の尺度」。
当然、人によって尺度は変わります。
常識とは、世間一般からみた尺度とのこと。
それが、自分の尺度とずれている人が、いわゆる「非常識」の人です。

常識ではなくても、相手の尺度とズれていることで問題になることもあります。
例えば、自分では全然問題ないと思っている音が、他人にとっては大きな耳障り…
隣人同士のトラブルでよくあるケースですね。
また、最近話題の体罰問題。
加害者は指導のつもりでも、被害者にとっては、死ぬほど辛い苦痛だったりします。

他人との付き合いを一切絶ち、誰もいない無人島で暮らすならば、自分の尺度だけを基準に生活してもOKです。
しかし、現実には、そうはいきません。
他の人と関わっている限り、「相手の尺度」に配慮しなければ、いろいろな問題が生じます。
本誌では、何度も「相手の立場で考えてみること」の重要性を書いてきました。
その習慣化こそが、周囲の人たちと円滑に仕事や生活をするためのカギです。

さ：「三寸之轄（さんすんのかつ）」

<意味>

小さくても絶対に必要な大切なもの。

些細であっても欠かせないもの。

「轄」は、車輪が軸から抜けられないようにする「くさび」のこと。

<使い方>

彼の働きは地味だが、会社にとって、三寸の轄とも言うべき役割を果たしている。

スポーツの団体競技を見ていると、このことわざの意味を実感します。
例えば、バレーボール。
守備専門の「リベロ」というポジションがあります。
同じ守備専門でもサッカーのゴールキーパーだったら、PKを止めたりして、翌日の新聞の一面を飾ることもあるでしょう。
実際に、日本代表の川島選手も、何度か「マン・オブ・ザ・マッチ」に選出されています。
しかし、バレーボールのリベロの場合は、そういうことは絶対になし。
スパイクを打たずに、ひたすらレシーブするのみです。
バレーボール選手を志す子供の中に、最初から「リベロになる！」という子はいらっしゃいますか？
たぶん、NOですね。
誰だって、ヒーローになりたいですから。

女子バレーの佐野優子選手は、ロンドンオリンピックの銅メダル獲得に大きく貢献しました。
ひたすらボールを拾いまくる姿に感動しました。
そんな彼女だって、学生の頃はチームのエースだったはず。
高いレベルのチームの中で生き残るために「リベロ」のする時は、どのような心境だったのでしょうか？
チーム一の花形選手から、チーム一の地味な選手へ。
かなり、悩んだんじゃないかな…
しかし、佐野選手は、「FOR THE TEAM（チームのため）」に徹しています。
そんな姿を見ていると、本当に頭が下がります。

営業現場でも、同じような役割の人たちがたくさんいます。
例えば、営業所の業務担当の方々。
自ら、大きな受注を獲得して注目を浴びることは無いけれど、まさに、無くてはならない存在です。
バレーボールのリベロのように、お客様から打たれる様々なボールをしっかりとレシーブして、営業につないでくれているのです。
「俺たちが稼いでいるんだ！ いちいち細かいことをグチャグチャ言うな！」
営業担当者の中には、業務の方に対して、大柄な態度をとる人をよく見かけます。
「可哀相な人だな・・・」
そういう人を見るたびに、私はそう思います。

目立つとか目立たないは、外から見た姿です。
中にいる人にとっては、どちらの重要性も同じこと。
チームの皆が、それぞれの重要性を認め、尊重し合う…
それが、強いチームの条件です。

「お前が持っているそのボールは、チームメイトが懸命につないだくれたボールなんだ。心で蹴れ。」
サッカー日本代表の長友選手は、中学時代の恩師に、そのように言われたそうです。
素晴らしい考えですね。

し：「自給自足（じきゅうじそく）」

<意味>

自ら給し、自ら足りる。
つまり、自分が必要とするものは、自分でつくるとのこと。

<使い方>

この村は基本的には自給自足で、自らの食糧や衣料は自分たちで作っている

以前、農協に勤めている友人からショッキングな話を聞いたことがあります。
それは、食糧問題です。

皆さんは、日本の食料自給率を知っていますか？

農林水産省の平成23年度の調査では、カロリーベースで39%とのこと。

この数字は、ここ10年間、ほとんど変わっていません。

（注）カロリーベースとは、日本人が摂取している総カロリーに対して、日本でとれる食物の総カロリーのこと

因みに、他の先進国の食料自給率は以下の通りです。

アメリカ130% フランス121% ドイツ93% イギリス65%

日本の自給率は他の諸国と比較して、極端に低いのです。

また、1970年からの推移で見ると、さらに深刻です。

アメリカ104%⇒130% フランス112%⇒121% ドイツ68%⇒93%

イギリス46%⇒65% 日本46%⇒39%

つまり、他の諸国が自給率をだんだん高めていっているのに対して、日本だけが低下させているのです。

「日本はお金持ちだから、足りなかったら他の国々から買ってくればいいじゃない」
このように考える人もいます。
しかし、近年、これは「甘い考え」ということがハッキリしてきました。
それは、中国をはじめとした、人口が多い国の急速な経済発展が理由です。
ご存知の通り、中国は今や日本を抜き、世界第2位の経済大国になりました。
日本の高度成長期のように、国民の生活水準はどんどん高まっています。
生活水準の向上は、肉類の需要を増加させ、飼料用穀物の需要も合わせて急増しています。

中国の人口は、13.2億人で、日本の約10倍です。
そして、今の食料自給率は95%。
今はまだ、都市部と内陸部では所得格差がありますが、近い将来そうした格差も急速に縮まってくるでしょう。
そうなった時に、予想されることが、中国の穀物輸入です。
果たして、その時、世界の生産量で足りるの？
今のレベルでは難しいそうです。
世界的な食料不足は単なる脅しではなく、目の前に迫っている現実なのです。

「お前たちは、確かにお金は持っているけれど、生意気だから売ってあげない」
日本がもし、そんなことになったら大変なことです。
そうならないように、今のうちから、日本も世界的な貢献をしっかりとしておくべきだ！
私の友人は、そのように話していました。

<次回に続く>